

臼杵市 事務事業評価シート
(令和4年度)

番号	課名	グループ名
H - 1	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名	小型動力ポンプ及び消防団車両(積載車・ポンプ車)購入事業		新規・継続	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VII-21-49 救急体制・消防力の充実		
	関連施策名(施策コード)	III-8-14 防災・減災のための環境整備		

基本項目	事業内容(経緯)	小型動力ポンプ3基、消防ポンプ自動車1台を購入し、消防団機械庫に配備しました。火災をはじめ、各種災害発生時の機動力向上のため、整備・更新を行う必要があります。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4 実績値	R6 計画値	
		①	消防団車両老朽化所持率	全46台に対する比率	%	H31 17.39	R2 17.39	R3 22.44	28.26	39.13
		②	小型動力ポンプ老朽化所持率	全53台に対する比率	%	23.21	19.64	21.43	20.75	32.07
		③								
	④									
事業対象	消防団及び、市民	成果	火災に対し早期に対応でき、市民の生命・身体・財産の被害を最小限にすることができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4 実績値	R6 計画値		
	配備後15年以上経過の車両・ポンプ数	老朽化率の車両、ポンプ数/全99台	%	H31 20.58	R2 14.7	R3 21.9	24.24	35.35		

コスト	関連する予算事業									
	会計	款	項	目	事業	節(または説明)	事業費(千円)	関連する行動指標		
	11 一般会計	9 消防費	1 消防費	3 消防施設費	335 消防施設費	17 備品購入費	19,536			
	11 一般会計	9 消防費	1 消防費	3 消防施設費	335 消防施設費	17 備品購入費(繰越)	6,248			
	11 一般会計	9 消防費	1 消防費	3 消防施設費	335 消防施設費	18 備品購入費	5,246			
							a直接経費合計	31,030		
直接経費財源内訳		国庫補助金(千円)		県補助金(千円)		市債(千円)		使用料・手数料・その他(千円)		一般財源(千円)
				5,189		25,800				41

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	A	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	老朽化した車両・ポンプは故障が多く発生しており、いつ発生するかわからない災害に対し、迅速に対応するため、購入は必要です。
	有効性	A	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	有事の際に即座に対応し、被害の軽減が期待できます。
	効率性	A	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	計画的に更新することで、効率的に活動でき、老朽化に伴う修繕費や人件費を削減することができます。

事業の問題・課題	物品や資機材の管理者に対し、常日頃から機械の点検や使用をお願いしていますが、まだまだ機械を動かさないことによる故障が見られます。故障が無いよう、維持管理の徹底をしていく必要があります。
具体的な改善案	3年ごとの専門業者による点検を行い、質の高い管理方法を指導していきます。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	火災をはじめとした各種災害に対して、迅速に対応するために小型動力ポンプ及び車両の整備・更新を計画的に行う必要があります。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
H-2	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名	消防団消防機械庫新築事業		新規・継続	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VII-21-49	救急体制・消防力の充実	
	関連施策名(施策コード)	III-8-14	防災・減災のための環境整備	

基本項目	事業内容(経緯)	老朽化が進んでいる機械庫を新築し、効率的な出動体制の確立および災害時の団員の待機・休息場所を確保します。また、災害拠点施設としての機能を十分に果たせるよう、建設地の厳選をします。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4 実績値	R6 計画値	
		①	消防機械庫の新築数	単年度整備数	棟	H31	R2	R3	0	1
		②								
		③								
④										
事業対象	消防団	成果	野津方面隊第2分団1部の機械庫は旧野津町救急派出所を再利用しており、築50年以上が経過していました。災害による被害は少ない立地であることから移転はせず今年度は解体工事を行い、令和5年度に新築工事を行います。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4 実績値	R6 計画値		
	整備後30年以上経過の機械庫数	整備後30年以上の老朽化率(全60棟) (30年以上経過の機械庫数÷全60棟)	%	H31	R2	R3	55.00	58.33		

関連する予算事業										
会計	款	項	目	事業	節(または説明)	事業費(千円)	関連する行動指標			
11 一般会計	9 消防費	1 消防費	2 非常備消防費	334 非常備消防費	12 設計委託	1,787	①			
11 一般会計	9 消防費	1 消防費	2 非常備消防費	334 非常備消防費	12 調査委託	284	①			
11 一般会計	9 消防費	1 消防費	2 非常備消防費	334 非常備消防費	14 消防施設整備工事費	4,294	①			
a直接経費合計						6,365				
直接経費財源内訳		国庫補助金(千円)		県補助金(千円)		市債(千円)		使用料・手数料・その他(千円)		一般財源(千円)
						6,000				365

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		大規模災害時に、消防団員の拠点施設である機械庫詰所がその機能を十分に果たすことによって、多くの市民の生命・身体・財産を守ることができます。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		管轄する地域内で災害時でも被害の影響が少ない用地を確保するとともに、新築したことによって、地域の住民とのつながりが強くなり、住民の安心にもつながると考えます。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		地元自治会・分団との協議により、円滑な用地確保ができています。	
事業の問題・課題	災害時の拠点施設としての機能を十分に果たせるよう、建設地の選択が重要になります。			
具体的な改善案	地元自治会や消防団と協議を行い、危険順位の高い機械庫を優先的に建て替えるように計画性を持って実施します。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	老朽化が進んでいる機械庫を新築することで出動体制の効率化を図り、地域防災の拠点となることが期待されます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(令和4年度)

番号	課名	グループ名
H - 3	消防本部警防課	救急グループ

事務事業名	軽救急車購入事業		新規・継続	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VII-21-49	救急体制・消防力の充実	
	関連施策名(施策コード)	III-8-14	防災・減災のための環境整備	

基本項目	事業内容(経緯)	軽救急車を1台購入し、臼杵市消防署へ配備しました。軽救急車を活用することで、通常の高規格救急車では進入困難な場所(幅員2m満たない道路や、車両の転回が困難な場所)に対応でき、救命率の向上と容態悪化の防止、活動時間の短縮が期待できます。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4	R6	
					H31	R2	R3	実績値	計画値	
		①	軽救急車購入	購入台数	台	-	-	-	1	
		②								
	③									
④										
事業対象	市民	成果	令和5年3月に納車済。狭隘地区の救急出場に際し、早期の救急対応が期待できるようになりました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			R4	R6		
				H31	R2	R3	実績値	計画値		
	軽救急車購入	購入台数	台	-	-	-	1			

コスト	関連する予算事業								
	会計	款	項	目	事業	節(または説明)	事業費(千円)	関連する行動指標	
	11 一般会計	9 消防費	1 消防費	3 消防施設費	335 消防施設費	17 備品購入費	17,809	①	
							-		
							-		
	a直接経費合計							17,809	
直接経費財源内訳		国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)			
				17,800		9			

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	狭隘地区には高規格救急車が進入できないため、機動力のある軽救急車の導入を期待されました。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	狭隘地区へ救急出場した際に即座に対応し、救命率の向上と容態悪化の防止、活動時間の短縮が期待できます。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	車両の整備により狭隘地区に住む市民の安心安全が期待できます。	

事業の問題・課題	道路交通法における乗車人員の規定により、関係者の同乗ができない旨を理解してもらうため、市民に周知する必要があります。
具体的な改善案	新聞、テレビ(ケーブルテレビ含む)、市報広報などを活用して、運用方法と関係者の同乗ができない旨を周知していきます。

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由	軽救急車を購入し配備することができました。
------	----------------------	----	-----------------------